

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 4ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	令和元年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日			

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全・安心を前提とし、利用者様一人ひとりが笑顔で自立した生活が送れるよう、健康寿命や地域の一体化に目を向け、日々ケアに取り組んでいます。又、初心にかえり、会社の理念をスタッフ一人ひとりが理解しケアの場に活用していただけるにはどうしたらいいか、認知症介護とはどのような支援なのか等に着目し、新人スタッフをはじめ、全員で学びケアの向上に努めている。
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に参加職員全員で運営理念の複唱を行っている。又、各ユニットで月2回のカンファレンスでも活用している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の作業(草刈り・清掃)や行事(どんど焼き・祭り)などに積極的に参加している。又、事業所イベント(ハロウィン・クリスマス)などに参加していただいたり合同夏祭りを開催している。又、子ども110番にもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な連絡・訪問を活用している。又、運営推進会議にも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長様・民生委員様・居宅ケアマネ・行政・ご家族様にも参加していただき、日頃の悩みやテーマを題材に話し合っている。又、意見箱や自発的改善箱を設置している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期連絡・会議・イベントをこまめに交流している。研修や入居の相談もさせていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	将来的には無施錠を目指し、非常口の施錠は事故の無いように安全に十分に配慮している。各ユニットにマニュアル常備。勉強会でも取り上げ、職員規約に載せ朝礼時に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に市や他施設が開催する研修に参加。朝・夕に身体確認を行い、防止対策・万が一の場合の早期発見に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の受け入れや権利擁護に関する行政との連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、同意を得てインフォームドコンセントに心掛け、不満や悩みも聞けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や利用者様苦情窓口を設け、運営推進会議で話し合い、運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を反映しやすいように自発的改善箱を設置。日頃ユニットリーダーが自由に話し合える雰囲気作りに努め、必要に応じ代表者の個別面談による相談も受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇・リクエスト休暇等自由に休日が取ることができる。精勤・PDCA・資格手当等があり、ケアに対する意欲を促し手当としてつけている。残業禁止をしており、それが可能なような体制づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自発的に働きながら勉強できるよう休暇等就業環境に配慮しながら研修日程の組み立てを行っている。月1回の勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設・同業者との交流の参加を促したり、情報交換・施設見学等を行いサービス向上を図るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃利用者様の要望やニーズに対し「実現」に向け、職員・利用者様と共に考えてケアの見直しを行うことで信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員がご家族様の訴えを傾聴し受容できるように支援や相談ができる体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報や日々のアセスメントやご家族様からの情報を基に、利用者様のストレスや不安等に気づけ、必要とする支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ること。出来ないことを見極め、又、役割を見つけADLに合った支援を行い、QOL向上に繋がるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆を大切にながら、ご家族様と情報交換し、共に支えていく関係を気づいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでご本人様が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援する努力をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立しないよう利用者様同士が関わり合え、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から相談しやすい関係作りに努め、退居の際は連絡先を控えさせていただいて、退居後も近況の報告も伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント・生活歴・入居時にご家族様に話を伺い、各利用者様に15分会話(コミュニケーション)を取り入れ対応している。日常の表情やしぐさを受け止めて、チームケア会議で話し合い支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様。ご家族様と会い、事前に話を聞いている。又、15分の会話を取り入れ記録を残し、全職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの性格・行動・言動を記録に残し、過ごし方・心身状態や有する力を把握するため、月1回ユニット会議を行い情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・チーム・ご家族様が参加するケア会議を行い、意見が出せる場を作っている。参加できないご家族様にはアンケートを書いていただけるよう面会時に声をかけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残し、提供したサービス以外にも気づきを観察事項に記入・共有しケア会議の際に記録を活用し実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベントの実施やユニット合同のレク・同グループ施設の行事にも参加していただく機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町が主催する地域の行事に参加したり、地域の子ども会のお神輿の休憩場を提供したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来の関係も踏まえ、かかりつけ医に継続受診できるようにしている。定期受診は職員と医師の連携を行っており、記録に残し職員間で共有し変化があった際にはご家族様に報告し共有している。日頃から体調管理を行っており、記録に残し早期の治療に繋げられる体制を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況の変化や毎日のBT測定など記録に残し、定期受診時に相談したりと適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と協定を結び連携を取り、依頼・オムツなど不備の無いよう協力的な面会を行い、関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針について入居時に口頭で説明。状態変化に応じご家族様・かかりつけ医と相談し「ターミナルケアマニュアル」を作成して毎日の状態の変化を記録に残し職員間で共有し、状態の把握をして統一したケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けており、勉強会や研修を活用し知識や応用力を身につけられるよう努めている。各ユニットに急変時・事故発生に備えてマニュアルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年2回夜間想定消防訓練も実施。各利用者様の身体状況カードを居室入口に提示したり、災害・土砂災害に対するマニュアルを設置し、職員周知に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入口にのれんをかけたリバット・オムツ確認時は居室ドアを閉め、羞恥心の配慮や威圧的言動・行動は慎みリーダー・職員共に尊厳について勉強会で取り上げる機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープン・クローズ・クエスチョンの取り組み、アセスメントの活用をし対応・態度で出来る限り自己決定が出来るよう努力し、サインを見逃さないようチームで取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様からの訴えを優先し、外出希望の方へはお茶会・ドライブ・外散歩等を支援したり個々のケアも行い、各個人の時間も大切に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師の訪問や、毎朝の口腔ケアの際の整容を行い、各個人毎にクシや鏡を用意している。日常はもちろんのこと外出時に着替えをしたり声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園芸場で育てたネギなどを使ったり、利用者様のADLに合わせ配膳・下膳・味見・野菜などの皮むきをしていただいている。「お好み食」の提供又は、毎日検食(職員)と一緒にお話をしながら食事を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列施設の栄養士が作成した献立を使用。一人ひとりの食事の形態や摂り方・ペースなどに合わせ主食・副食の割合を調節し、個々に合わせて提供。各ユニット毎に食品衛生責任者をおいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のADLに合わせ、声掛けや案内・介助などそれぞれの方に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況は毎日の経過記録に残し、排泄パターンの把握に努めている。各々の能力に応じた支援・介護を行っている。職員には各利用者様の特徴や羞恥心に配慮・トイレ誘導・オムツ介助のやり方を教え、15分チェック表を活用し状態の確認してトイレ誘導を心掛け、パット・オムツの		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、消化の良い食事・レクでの体操・運動を取り入れ、自然排便が出来るよう心掛けている。又、困難な場合は医師と相談し服薬でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けている。利用者様の希望に沿った体制を作っている。入浴剤の使用・入浴用のイス等の用意・拒否の多い方への言葉掛けの工夫・曜日の変更などを行い、清潔が保持できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて消灯時間を決めていない。日中は個々の状態や訴えに合わせている。時間にとられず昼夜逆転を防止のため、声掛けやアクティビティーを取り入れている。又、リネン交換行い清潔の保持・安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の既往歴の把握や情報をファイルで保管している。職員がいつでも確認できるように努めている。又、目的・作用・副作用の理解・状態変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様・ご家族様より好みを伺い、酒や本・新聞等嗜好品など安全に配慮し、それぞれが楽しめるよう支援している。又、外でのお茶会・ドライブ・外気浴等気分転換ができるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「イベント計画表」「レクリエーション計画表」を立て、日常的には週2回くらいの外散歩・お茶会・好物の買い物に付き添うなど支援を行っている。又、ご友人様との外出や姪・甥様などが来られ、一緒に外出したり楽しみに繋がるよう工夫している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には安全に十分に配慮し所持していただいている。買い物や外出(受診時等)の際、声掛けを行い支援を計っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月近況を記載した「おたより」に写真を貼ったりコメントを書いたり送っている。中には携帯電話を所持している方もおり、ご家族様と連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	応接間にテレビ・新聞・灰皿を用意している。ご家族様や入居者様同士の共有の空間を設けている。各ユニットにはシーズンに合わせた飾り付け・利用者様の作品・行事毎の写真を掲示している。居間・居室には温度計を設置して、快適に過ごしていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファスペースを設けている。又、お仲間と良好な関係を保てるよう一人ひとりの席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口にはプライベート空間に配慮するためのれんをかけている。又、親族が描いた絵や自宅で使用してたタンス・冷蔵庫等持ち込んでいる方もおり、利用者様にとって過ごしやすい居室づくりを実現できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の手すりの設置や個々が使いやすいようベッド・タンスの配慮・共有トイレなどの案内板・シールで目印をつけたりと、安全に配慮し自立支援を行っている。		